



どうにかする力

泗水小学校だより
R5. 3. 13(月)
No. 50
校長 工藤竜一



泗水小学校
ホームページ

【校訓】 なかよく つよく しんけんに

【学校教育目標】 自立する泗水っ子の育成

～「生きる力＝どうにかする力」を育む教育活動を通して～

全校児童で楽しい思い出に！～6年生を送る会・送別遠足～

3月10日(金)、好天に恵まれて、6年生を送る会と送別遠足を実施しました。昼食の準備をはじめ保護者の皆様のご協力ありがとうございました。

6年生を送る会では、新児童会の主催で、泗水小の校地・校舎全体を使った「全校かくれんぼ」を行いました。縦割り班45班ごとに制限時間内に場所を決め、校長も含めた先生方が扮する鬼に見つからないようにかくれました。20分間かくれ続けるのは大変だったようですが、例えば1つの教室に班員12人ほどが上手にかくれていました。半分ほどの班は、鬼に見つかりませんでした。子どもたちは本当に楽しかったと言っていました。

午前10時から、縦割り班ごとに並んで市営泗水グラウンドまで送別遠足をしました。1年生と6年生、2年生と5年生が手をつないで歩きました。泗水グラウンドでは、昼食と自由遊びで楽しみました。

全校児童が集まっての集会活動や遠足は、おそらく3年ぶりではなかったでしょうか。「全校かくれんぼ」はもちろん、全校での送別遠足の実施計画を立てるのも久しぶりだったようで、担当の先生方は大変苦労していました。しかし、初めての活動である「全校かくれんぼ」は特に、事故が起きないように立ち入り禁止区域を決めて表示するなど、5年生を中心に準備をよく頑張ってくれました。全校児童が一堂に会しての楽しい行事が実施できて、本当にすばらしい一日となりました。



縦割り班ごとにかくれる場所を探しています



鬼？に扮した先生方もやる気満々です！



縦割り班ごとにおいしいお弁当を食べました！

☆校長室から独り言47☆

地域で子どもを育てるということ…

2月の授業参観の日に、今年度最後の学校運営協議会が行われました。協議の中で、泗水小の子どもたちの頑張り(授業の様子、学力調査の結果など)への評価と同時に、課題(登下校時に挨拶ができていない、下校時にお店に寄って駄菓子を買っている子がいた、など)を出していただきました。学校からは、課題については子どもたちにきちんと指導することをお約束しました。特に挨拶については、今後、児童会活動を活性化させて、子どもたちから挨拶をしようという機運を高めていきたいとお話しました。しかし、地域での子どもたちの課題については、学校での指導だけでは限界があることも事実です。委員の方からは、「お店にお願いして、帰宅してから来るように言ってもらえないか。」というご意見もありましたが、それは営業妨害にあたり、難しいのではないかと話になりました。

昔は、子どもが悪いことや危険なことをしていると、近所のおじさん、おばさんが注意してくれました。私も子どもの頃、近所のおじさんに大声で怒鳴られたり、叱られたりしたものです。それが可能だったのは、子どもがどこの家の子で、親は誰なのかを知っていたからだと思います。どこの誰かもわからない子どもを注意するのは難しいと思います。逆に子どもの立場からすると、どこの誰かも知らないおじさんやおばさんに、挨拶するのは難しいと思います。スーパーマーケットやドラッグストア、コンビニエンスストアなどで会った人すべてに、挨拶をしながら買い物をする小学生なんていないと思います。挨拶も注意も、どこの誰なのかをお互いにわかっている人間関係があって初めて成立するものではないでしょうか。

泗水小は、県下初のコミュニティ・スクール(学校運営協議会)が組織されて17年の歴史があり、地域と学校が協働して子どもを育てる基盤ができています。子ども会に加入されない世帯があるなど、地域の実情が変わっていることも聞いています。子育ては、家庭だけでできるものではないと思います。地域のカモお借りしながら、子どもたちの成長を見守っていく仕組みがしっかりとあるのが泗水小校区の強みです。来年度は、「アフターコロナ」となり、「社会に開かれた教育課程」再スタートの年になります。保護者の皆さんも、お子さんと一緒に地域の行事等にも積極的に参加していただき、地域の方々とお互いに知り合い、わが子を見守ってもらえる関係づくりをしていただけたらありがたいと思います。